



メールマン方式伝道マニュアル

「10億枚の招待状」へのレスポンスに対して教会はどう対応できるか

牧師・信徒伝道会資料

メールマン方式伝道についての参考資料として、1994年と1995年に東日本教区教会活動部から発行した「メールマン方式伝道マニュアル」を一部改訂してお送りします。



「アドベンチスト・ライフ」や「ちゃみに」紙上ですでにお知らせしていますので、もうご存知のことと思いますが、2003年9月1日から2004年の8月31日までの1年間、全世界で聖書の学びを勧めるために特別な印刷物を10億枚配布しようという「10億枚の招待状」プロジェクトがはじまります。

VOPバイブルスクール（預言の声）本部での郵送による講座の研究やインターネットを使ったホームページでの研究に多くの申し込みがあると思いますが、直接、皆様の教会に研究を申し込まれる方もおられるはずで、招待状にこたえて、聖書の学びへの申し込みをしてくださったそのような方に対して、教会ではどのように対応できるでしょうか。

その方法の一つが、メールマン方式伝道です。これは、9月に開講予定の新しいVOPバイブルスクール教材を用いた教会でのバイブルスクール運営の一つの方法です。

教会でのバイブルスクール、またメールマン方式での研究、グループでの研究についてご理解いただくために、このマニュアルをお送りします。ぜひ、牧師、信徒伝道会の皆様でお読みいただき、貴教会での、メールマン方式伝道にお役立てくださいますように、お願いいたします。

2003年7月
「10億枚の招待状」実行委員会

※このマニュアルは、下記の文献を元に作成しました。
『メールマン方式伝道マニュアル』／1994年12月1日発行／川越 勝著／東日本教区教会活動部発行、『メールマン方式伝道マニュアル・2（問題点と打開策）』／1995年12月1日発行／川越 勝著／東日本教区教会活動部発行

目次

メールマン方式伝道マニュアル

メールマン方式伝道とは	1
メールマン方式伝道の準備	3
メールマン方式伝道の実際	3
メールマン方式伝道における	
心がけと注意すべきこと	6
おわりに	8
進度表	9

メールマン方式伝道マニュアル・詳細版

メールマン方式伝道とは

メールマンとは郵便配達人のことです。「郵便配達人方式伝道」では少し長いのでメールマン方式伝道と呼びます。通常、VOPバイブルスクールに申し込むと、横浜の教団本部にあるVOPバイブルスクールから教材が郵送され、希望者は通信によって学びます。全国各地に研究生がいるので郵送による通信教育で学ぶこととなります。同じ内容の講座を用いて、通信式ではなく、伝道する人が郵便配達人としてその講座を研究生に直接届けながら学んでいただくのがメールマン方式伝道です。

1. メールマン方式伝道そのものがわからない

何をどのようにやったらよいのか、その方法がわからない。方法論の問題です。三育学院神学部にて非常勤講師として行っていた時のことです。教会で伝道講演会をする場合、どのようにして計画し、教区に予算を申請し、講師と交渉し教会をまとめ、実行に移すかといった講演会をする時の手順を講義しておりました。実はこのことについてはだれも私には教えてくれなかったのです。それで私はまったくのゼロからスタートし、経験によってだんだん知ることができました。無から始め失敗を重ねながら身につけていくことは、考えてみますと、たいへん効率が悪いわけです。先輩が後輩にキチンと指導をすれば後輩は不必要な失敗を重ねなくてすみ、また早く学ぶことができます。だれも私には教えてくれませんでしたので、これではよくないと思い神学部のクラスで扱ったわけですが、するとある学生が手を上げ、「先生、その講演会のやり方のマニュアルはないのでしょうか?」と質問しました。私は「ありません」としか答えられませんでした。するとその時、約20名の学生があきれたようすをしたことが今でも忘れられません。

テレビ、ビデオ、ワープロ、カメラ等を買いますと必ずマニュアルがついてきます。ワープロのマニュアルなんか厚くて見るのもたいへんなものがあります。しかし、この大切な伝道の働きのマニュアルはほとんどないのです。あの学生の質問、学生達の反応を思い起こすときに、マニュアルの必要性を強く感じました。それで1994年の12月に「メールマン方式伝道マニュアル」を発行いたしました。このマニュアルを読んでもいただければ方法については、よくわかりいただけるでしょう。



2. 方法はわかるが教会として取り組んでいない

これも問題です。これは意欲の問題です。私は20代の後半からこのメールマン方式伝道をしておりませんが、これはなかなかいい伝道法です。これは実行したほうがいいのです。なぜこの伝道法はよいのでしょうか。

(1) どこでもできる伝道法である

大都市、中小都市、地方、大教会、中小教会、集会所に關係なくどこでもできる伝道法なのです。よく考えてみますと、このようにどこでもできる伝道法はあまりないのです。関東地方でうまくいっている伝道法はどこでも成功するというわけではありません(うまくいく時もありますが)。また、大都市だからできる伝道があり、中小都市だからできる伝道もあります。教会のサイズを考えても同じことが言えます。どこでもできるということはすばらしいことなのです。

(2) 研究生の10人に1人がバプテスマを受けている

伝道の効果という面から見てもすばらしい伝道法です。かつてある教会で講座修了生20名のうち15名がバプテスマを受けたことがあり、42名の修了生のうち12名がバプテスマを受けたこともあるのです。研究生10人のうち1人がバプテスマを受けていることはすばらしいことではないでしょうか。統計上はこれがハッキリしているわけですから、もっともっとやるべきです。今のSDAでこれほどハッキリわかっている数字はないのです。10人の研究生のうち1人がバプテスマを受けているというのは東日本教区の教会の平均ですが、私が今まで働いたいくつかの教会では研究生の2名のうち1名がバプテスマを受けています。これは伝道効果から見てもほんとうにすばらしい方法です。

(3) マン・ツー・マン伝道である

VOPバイブルスクールが研究生に対してしている方法は通信伝道です。ある人はこれをペーパー伝道と呼んでいます。確かに研究は進むのですが、だれも研究生に会っていませんし会話をすることもないのです。しかしメールマン方式伝道は教会員が毎回研究生に会い、顔を会わせ、質問を伺ったり、会話をしたり、だんだん交わりが深まりますと共に聖書を開いて読んだり、祈ったりするマン・ツー・マン伝道です。紙やテープではなく、人間が直接にかかわって導く伝道なのです。

(4) 相手の手元に学んだことが残る

牧師のすばらしい聖書研究を毎週受けても、求道者の人が聞くだけでしたら、やがて学んだことの多くを忘れてしまいます。メールマン方式伝道で使っている教材は、毎回相手の手元に残ります。研究生は読むだけではなく、質問に答え、答案用紙に記入するので、さらによいのです。

(5) 「真理は小出しに」の原則にあっている

教理が1冊にまとめられている本を貸し、相手の人がその本を一気に一晩で読んだとします。次のようなことが起こり得ます。「えっ、キリストが処女から生まれたって」バカバカしい。「そのキリストが雲に乗って再臨する」重

い物体は雲には乗れない。科学的ではない。「エビ、カニ、タコ、ブタは汚れているから食べてはいけない？」これはまったく変な教えだ。「安息日だから週の七日目は働いてはいけない？」とんでもない。「十分の一は神様のものだから返しなさい？」冗談じゃない、いいかげんにしてくれ、もうこんなものは読んでおれない。この教会に深入りしたらいへんなことになる。もう断ろう。

真理は一度にドカッと出しますと理解も気持ちもついて来れないことが多いのです。小学校に入学した時に、「おめでとうございます」「ハイ、これが6年間の教科書です」と言って、6年分を渡すことはありません。ふさわしい時にふさわしい分だけ渡すのです。毎週1課ずつ渡すメールマン方式は「真理は小出しに」の法則にも合っているのです。何と言っても、研究生の10人に1人がバプテスマを受けていることを忘れてはいけません。私は転勤で新しい教会に赴任しましたら、まずこの教会には何人の研究生がふさわしいかを考えます。教会のサイズが違いますから数が違うのも当然です。しかしその教会にふさわしい数を知ること決して難しいことではありません。いや、非常に簡単です。研究生のうち10人に1人がバプテスマを受けているのですから、ふさわしい数はバプテスマ目標数の10倍です。私はこれを目標に働きました。この伝道法は間接伝道ではなく直接伝道であるだけに実行すべきです。

ここで教会の行事について少し考えてみましょう。皆さんの教会は行事をこなすのに忙しくないでしょうか。元旦礼拝からクリスマスまで季節によっていろいろな行事があるでしょう。イベントは大切です。しかし、それをこなすことで忙しくなり、伝道にさく時間が犠牲になっていたら、考え直しましょう。私たちは永遠に働けるわけではありません。人生にもこの世にも限りがあります。

人材にも限りがあります。優秀で能力がある人があまっている教会があるでしょうか。どの会社も団体も人材不足です。教団も教区も各教会も人材不足を感じているのではないのでしょうか。もちろん、経済にも限りがあります。ありあまる資金を使って伝道するわけではありません。このように時間、人材、経済と3拍子の不足がそろっているわけですから、教会はあまり幅広くあれもこれもとやっておれません。そうすれば集中できませんし、集中しないとよい結果も出ないのです。

かつて新名先生がアンドリュース大学で博士課程の勉強をされた時、教会行事数と教会成長の關係をある科目で学ばれました。SDAは忙しく行事をするわけですが、行事を多くするほど多くの人が救われるのかということが1つのポイントになります。行事数と教会成長は比例するのでしょうか。もしそうであれば、行事を多くして忙しく活動している教会が成長することになります。しかし現実には必ずしもそのようにはなっておりません。アンドリュース大学のR・A・ハバード博士は次のように教えているそうです。教会の行事は3つの種類に分類することができ、それぞれにどのくらい時間と労力を費やすかの比率は次のようになります。

対内養育プログラム	50%
主として教会員のため	
教会運営管理プログラム	40%



対外伝道プログラム	10%
救霊のため	

が少ないなと思ったのですが、その内容を見て、なるほどと思いました。その内容とは、

対内養育プログラム

安息日学校、礼拝、祈禱会、聖書研究(教会員のため)、青年会、家庭会、SS教師会、修養会、野外礼拝、聖歌隊練習、新年会、手話サークル、その他

教会運営管理プログラム

各部役員会、理事会、教会活動委員会、執事会、長老会、伝道協議会、事務会、推薦委員会、片付け、掃除、草刈り、修理、その他

対外伝道プログラム

招待日、伝道講演会、VBS、クリスマス会、コンサート、トラクト配り、メールマン方式伝道、小羊クラブ、文伝クラブ、小グループ、家庭集会、その他

この50パーセント、40パーセント、10パーセントが今のSDAの標準で、を10パーセント以上にすると、その教会は成長し、10パーセント以下にすると成長しないそうです。どうかあなたの教会の教会活動委員会や理事会で、教会の行事の優先順位を決めてください。あれもこれもとたくさんはできないのです。あるものは思い切ってカットしてください。よく相談して優先順位を決めてください。あまりにも窓口を広げ過ぎますと集中できません。そしてその優先順位の上位にこのメールマン方式伝道を入れてください。

3. 教会員自身が講座をやっていない

自分自身がやっていないものを人に勧められないのでしょうか。SDAは正直な(?)人の集まりのようです。教会員の方でも大いに結構です。まず自分でやってみてください。聖書通読、教課研究、あかしの書通読、アドベンチスト・ライフ、祈りのノート等学ぶことはいろいろあるようですが、VOPバイブルスクールの新しい教材も学んでください。自分自身がやっていると人に勧めるのは気がひけるでしょう。今までの知識の整理、復習、伝道の準備のためにもやっていただきたいと思います。

研究生からあずかる答案用紙の添削は、基本的にメールマン自身が行うこととなります。このためにも自分で1度、研究しておくことが大切なのです。時には難しい質問を受けることもあるかもしれませんが、そのようなときには、自分の教会の牧師さんと相談いたしましょう。模範解答と添削の注意点については、VOPバイブルスクールから教材と一緒に送りいたしますので参考にさせていただきます。

メールマン方式伝道の準備

まず教材そのものを教会で準備する必要があります。教材は教団のVOPバイブルスクールから無料で手に入れることができます。教材が教会のどこに置いてあるかわかりませんとメールマンが困ることとなります。専用のケース

や引き出しを準備なさせて多くの人々がすぐ利用できるようにされるとよいでしょう。置いてある場所は牧師だけがわかっていて他の人はわからないということがあってはなりません。

修了証書を購入することはできません。研究生が修了したら、葉書やFAXで、修了者名、教会名、修了日をVOPバイブルスクールにお知らせください。修了証書を発行して、教会にお送りします。もし修了日についてご希望日があればお知らせください。

教会としてバイブルスクール係(最低2人)を決めましょう。教材の準備や、研究生の進度表の整理、修了証書の申請などを、中心になってお世話する係です。

メールマン方式伝道の実際

1. 毎週何時間奉仕するかを祈りつつ決める

研究生ができますと、毎週講座を届けに行かなくてはなりません。その時間を祈りつつ決めるのです。研究生までの距離にもよりますが最低2時間は必要でしょう。研究生が増えますと、半日、1日と時間も増えるでしょう。この奉仕時間を決めることがこの働きの土台です。これがシッカリしていないと続けられませんが、研究生は答案用紙に答えを書いて、次の訪問を待ってくださるので、メールマンも約束の日時を守り、よい信頼関係を築きましょう。毎週、毎週決まった時間に届けるわけですから、主に祈りつつ奉仕時間を決めましょう。自分の近くに研究生を見つけることが継続の秘訣でしょう。最初は家族から、隣近所の友人、知人から始めたらどうでしょう。

教会の伝道講演会の準備にはたくさんの方が参加しますが、講演会後のフォローアップには牧師と教会員のほんの一部の人しか参加していないという例は日本に多いようです。ですから、十分なフォローアップができず、訪問や聖書研究も少なくなり、そして収穫も少なくなります。その原因の一つは、講演会后、だれがどのくらいの時間をフォローアップに参加できるかをきちんと計画していなかったからです。メールマン方式ではまず奉仕時間をキチンと決めることから始めます。

2. まず申し込みをとる

この伝道は申し込みを取ることから始まるわけですが、どのようにして申し込みを取ったらよいのでしょうか。その方法を考えてみましょう。申し込みが取れる可能性がある人々を近い順から並べてみましょう。

(1) 牧師が定期的に聖書研究している人

私は特別な理由がない限り、バイブルスクールの講座を修了していない人にバプテスマを授けることはありません。終わっていることがバプテスマの条件というわけではありませんが、バプテスマを受ける人は講座を終わっていることは当然と考えるからです。毎週毎週牧師と聖書研究しているわけですから、この人々が一番可能性があります。牧師が自分で用意した材料で聖書研究をする場合、これを宿題にすればよいですし、研究のテキストにしてもよいのです。私も多くの人にこれを宿題として学んでもらいました。東日本教区内には定期的に聖書研究をしている人は

1200人以上いるわけですから（注：1995年の時点）まだこれを研究していない人に学んでいただくのが、申し込みを取る一番近道の方法です。

(2) 求道者

定期的に聖書研究をするところまではいかなくても、教会には求道者はいるものです。

- 小グループや家庭集会に来ている人
- 講演会に良く来ている人
- 招待日に来た人
- クリスマス会、コンサートに来た人
- サインズの愛読者（可能性あり）
- 三育幼稚園や三育小学校の父母、兄弟
- 教会受付の芳名簿にのっている人
- その他

これらの方々は2番目に近い人々です。それらの名簿を持ち寄り教会活動委員会でどの人に研究を勧めるかを真剣に討議なさってはいかがでしょう。

(3) 家族・友人・知人

家族の中に学んでくれそうな人はいないでしょうか。声をかけてみましょう。「しないでらう」とこちらで決めつけなくて聞いてみることです。VOPバイブルスクールの教材を夫婦で学んでいる方が結構多いそうです。

(4) まだ知らない人々

教団から無料で提供されるバイブルスクールの講座申し込み獲得用トラクト（10億枚の招待状）を用い、次のような言葉で説明してはいかがでしょう。

バイブルスクール申込者獲得のための勧め方

おはようございます。（こんにちは）。さんでしょうか。と申します。の隣の教会の者ですが、きょうはこのような物を紹介しております。ご覧ください。

聖書ほど多くの人に読まれてきている本はないそうです。また、出版物が氾濫している中で、心の乾きをいやす水として、聖書はぜひ一度は読むべき本だといわれております。さんは、実り豊かな人生を送っておられる方ですが、聖書から得られるものとして、真実の愛、心の安らぎ、幸福な家庭等をあげることができますが、私たちに人生に必要なすべてのものを得ることができるようになっております。この聖書をわかりやすく解説した教材が発行されておりますので、ご紹介しております。

この講座を学ぶと、聖書が与える希望と平安が与えられます。また、この講座は無料で学ぶことができます。学び終わったら、修了証書が発行されます。

私たちの教会は世界中にありまして、何10万人の人が講座を学んでおります。さんも、こちらにお所とお名前を書いていただきまして、ぜひお役に立てていただけたらと思ひまして。ありがとうございます。

思い切って勧めてみましょう。申込者全員が研究生として続くとは限りませんが、まず勧めてみましょう。そして相手にとって、いつおうかがいするのが都合よいかを相談

し、毎週手渡しする曜日と時間を決めます。最初に日時までは決まらないこともありますが、申し込みはとりましょう。

3. 研究生の進度表に記入する

バイブルスクール係、信徒伝道会役員、牧師、どなたでもよいでしょうが、記録を残さねばなりません。記録がありませんと、何人の申し込みがあり、何人研究生になっているのか、だれが何課まで進んでいるのかわからなくなります。メールマンが研究生に解答済みの課を渡してしまうと信用を失います。記録は正確にとる必要があります。

4. 次の課の答案用紙を持参し、

前回の答案用紙をもらいに行く

「さあ、あの方は研究してくださったかどうか」一番スリルある時です。学んでくださっていれば受け取り、次の第2課の答案用紙をお渡しします。もし解答を用意しておられなくても、研究を励まし、また、次に訪問するときまでに、解答を準備してくださるようお願いいたします。

ある教会でみなメールマンになってこの伝道に参加しようとアピールがあったのでしょうか。あるおばあさんがメールマンになり、申し込みをとったのです。訪問をしますと第1課の答案がいただけました。次の安息日、牧師に「先生、私にもできました」と言って涙を流したそうです。伝道に参加した喜び、感激があふれてきたのでしょうかね。

いくら教会に招いても来てくださらない方がいます。ましてそのような人は牧師と1対1の聖書研究をすることはほとんどありません。しかしメールマンが行くことによって勉強して下さる方がいるのです。良い方法ではありませんか。メールマンは参加意欲があればだれでもできる伝道法なのです。開始してから2、3か月しますと、研究生の反応が3つに分かれてきます。

1 グループ.....なかなか進まない人

このときメールマンは忍耐が必要です。笑顔で接し、励ましましょう。間違っても「私も忙しいのですから...」なんて言ってプレッシャーをかけてはいけません。忍耐です。そして祈ることです。

2 グループ.....毎週1課のペース

スムーズですのでこのまま続けます。

3 グループ.....1度に3課くらいまとめて欲しい人

さて、このような人にはどうしたらよいのでしょうか？熱心なのですからたくさんあげた方がよいのでしょうか。そうではありません。特別な場合を除き、毎週1課のペースを守るべきです。それでは特別な場合とは？引越、卒業、入学、結婚等でお別れがはっきりしていて毎週1課のペースではお別れまでに間に合わないとき等です。

ではなぜ相手が熱心であるとき、特別な場合を除き毎週1課のペースを守るべきなのでしょう？それはペースが早いからといっても、研究生が解答を書いてくださり、その解答が毎回優秀であってもそれは内容を理解できているとは限りません。どんなに熱心でも、あまり短い期間で



は聖書、創造、イエス・キリスト、再臨、安息日等をよく理解できにくいのではないのでしょうか。一度に1課のペースを守りましょう。

「もっとまとめてたくさんください」と言われる方には参考書として福音社発行の本や雑誌を貸してあげましょう。「私たちの教会でこのような本も出しております。何かのお役にたてば幸いです。どうぞお読みください」と言ってお貸ししてみてください。

5. 添削をする

研究生からあずかる答案用紙の添削は、基本的にメールマン自身が行うこととなります。このためにも自分で1度、研究しておくことが大切なのです。時には難しい質問を受けることがあるかもしれませんが、そのようなときには、自分の教会の牧師さんと相談いたしましょう。模範解答と添削の注意点については、VOPバイブルスクールから教材と一緒に送りますので参考にさせていただきます。

6. 研究生の研究が続かないとき

いろいろな理由で研究が滞るケースがあります。

(1) 研究生が研究の途中で興味を失う

この場合は難しいですね。水を飲みたくない馬には飲ませることがなかなかできないように。祈りつつ、研究を続けることを勧めましょう。

(2) 気持ちはあるが、生活や仕事に追われる

あなたのその人に対する愛が伝わるようにしましょう。それから、助けてあげたり、悩みの相談にのったり、贈り物をしたり、その人のために時間をさきましょう。時間を取って交わることです。プレッシャーをかけないで研究を勧め、祈り、何が大切であるか、聖書や信仰のすばらしさをあなたの体験の中からあかししてください。

(3) メールマンの熱心さが伝わらない

こちらが不熱心であって研究生が燃えることはありませんが、こちらが熱心であれば相手の人がだんだん燃えることはあります。熱心さが伝わって相手の人が動いたのです。こちらが早々とあきらめてはなりません。熱心のゆえに相手は断り切れなくて続けているうちにやがて真理を発見した人もあります。初めから熱心な求道者はあまり多くはありません。しかしこちらはいつも熱心でその熱心さが伝わらなくてはなりません。

7. メールマンが手渡ししただけでは満足できず

もっと直接的に伝道したくなったとき

(1) 質問を受ける

「第 1課まで進まれましたが、感想や何かご質問がございますか？」と、うかがってください。「どうぞお上がりください」と言われたら応じましょう。伝道者にとって上げていただけることは相手が心を開いているサインであることが多く、またチャンスであるからです。大切なことは、わかることには親切に答え、わからないときには無理して

答えないようにしましょう。たとえば「旧教と新教はどのように違うのでしょうか？」と聞かれたらどのように答えますか？ 質問によっては「私はそのことについてはまだよく理解しておりませんので調べてまいります」とか「良い質問ですね。もしよろしかったら、来週牧師と一緒におじゃましてもよろしいですか？」と言いましょう。メールマンは教師ではありません。研究生と共に学ぶ姿勢で誠実に対応しましょう。また、熱心な方には、聖書や福音社発行の本をお貸しするという方法もあります。

(2) 一緒に輪読しながら学ぶ（グループで研究する方法）

自分で資料を集め、講座の各課にそって教理の原稿を作ることは簡単なことではありません。三育学院神学部卒業生でも苦勞するわけですから。しかしメールマンはそこまでしなくてもよいのです。用意されている教材をお互いに輪読して学べばよいのです。もし研究生が数人になればグループとして学ぶことも可能です。これは求道者が集まったグループのテキストとして学ぶにはとてもふさわしいものの一つです。読むだけでなく一緒に答案用紙に答えを記入しましょう。そうすれば研究は確実に進みます。

毎回、学びの最後に答え合わせを研究生と一緒にしましょう。模範解答と添削の注意点については、VOPバイブルスクールから教材と一緒に送りますので参考にさせていただきます。

輪読方式の場合、人前で朗読することを非常に嫌う人がいることも忘れてはなりません。宗教用語・キリスト教用語に接したことがなかったり、漢字が読めなくて恥ずかしい思いをしたりすると、出席しなくなることもあるでしょう。リーダーは十分注意する必要があります。

8. 修了

さあ、修了です。修了証書は教会にはありません。VOPバイブルスクール本部で発行いたしますので、修了年月日、教会名、修了者名をハガキかFAXでお知らせください。教会あてに修了証書を送りいたします。

さてここで修了証書の渡し方ですが、本人の自宅で渡すのではなく、できるだけ修了式を教会で計画し、教会で渡しましょう。修了者が教会に出席するチャンスになりますし、教会員も他の研究生にとっても励ましのおきになります。もし人前でもお話ができる方でしたら、感想を話してもらったり、インタビューするのもよいことです。VOPバイブルスクールから、校長（ラジオ牧師）を招いて、修了式や特別なプログラムを行うこともできます。記念写真をとって渡すこともよいですね。

8. 修了後のフォローアップ

この教材の研究だけで終わるのではなく、聖書の研究を続けていただくよう、お勧めしましょう。修了後のフォローアップとしては、いくつかの方法が考えられます。

- (1) 家庭集会、小グループの聖書研究に誘う。
- (2) 牧師との聖書研究を勧める。
- (3) 安息日の集会に誘う。

いずれにしても、メールマン方式で研究している間に、よい人間関係が築かれていないと難しいステップアップに



なります。毎回の訪問の時に祈りつつ、よい交わりや会話を心がけましょう。

メールマン方式伝道における 心がけと注意すべきこと

1. 無理して申し込みをとらない

「一人でも多くの人にこの講座を紹介しよう。やってみよう」とメールマンがやる気満々だったとします。またその説明がスムーズで上手だった場合、相手の人は気が進まないのに断り切れなくて申し込みをする場合があります。そのような人が何人もいた場合、メールマンが次の週に行きますと、答案用紙は白紙のままのことがあります。もともとあまりやる気がなかったのですから。失望した顔をせず励まして別れるわけですが、2週間後、3週間後も同じ状態だったりします。こうなりますと今度はメールマンが行きにくくなります。相手の方も顔をあわせるのがつらくなります。メールマンの期待にそっていないことがわかるからです。やがてお互いの関係が気まづくなります。もしこのようなときにスーパーで買物中に相手を発見したとき、顔をそらし「見なかったことにしよう」とやりますと、その後どうなるでしょうか。「月 日から講演会がありますからぜひおいでください」とも言いにくくなり、メールマン方式だけではなく他の伝道もやりにくくなります。あまり無理をして申し込みをとらないことです。しかし恐れているは何も始まりませんので、まず友達になることからはじめ、いいときを見計らって主に祈り求めつつ働きましょう。

2. 答案用紙の添削は研究生にやる気と喜びを

与えることを目的に行いましょう。

赤ボールペン、赤鉛筆を準備しましょう。印だけでなく最後に優秀や優のゴム印を押し、「研究を始めてくださってうれしく思います。修了なさるまでがんばってください」とか「この課はいかがでしたか？ 続いてお学びください。答案をお待ちしております。係」などと添え書きしましょう。研究生は添え書きを期待しているものです。人間のあたたかみが出るようにしましょう。

模範解答と添削の注意点については、VOPバイブルスクールから教材と一緒に送りたいしますので参考になさってください。

メールマンの方も研究生に「ハイ」と言って渡すだけではなく、「さん、また、優秀ですね。素晴らしいですね」と一言付け加えてはいかがでしょうか。研究生はニコリしますよ。

3. グループ研究のときにはマンネリ化しないように

毎週輪読をやっておりますとマンネリ化する可能性があります。その危険性が感じられるときには月に1回ぐらいは変化をつけてみましょう。花が美しいときには野外に行って学んだり、牧師さんを招いて聖書の話をしてもらったり、聖書の教えと実際生活のことに关してディスカッションしたりして変化をつけましょう。輪読方式であっても皆さんが興味を持って学んでいるときにはそのままでもいいでしょう。いつも研究生の反応に気をつけていましょう。絶

えず引き付けていることが大切です。

4. 研究生の進捗表記入について（進捗表は巻末参照）

かつて私は新しい課を研究生に渡すと 印を進捗表に記入し、後日その課の答案用紙をいただいた後、採点をしなすと 印の内側に小さな 印をつけて にしてありました。こうすると何課まで渡して何課まで採点したかが一目でわかります。小学生を子供に持ったお母さん方が研究生になった場合、「子供が夏休みの間はしばらく休ませてください」と言われることがありました。その間勉強が完全にストップすることは伝道上望ましくありませんので、まとめて4、5課渡し、毎週1課ずつ勉強してもらうようにしてありました。しかし後から、いつ渡したのかはつきりしなくなり何週間休んだかもわかりにくくなりましたので、印方式は止め、日付（例5/10）を記入することにしました。上段は渡した日、下段は採点日です。印でも進捗はわかるのですがスピードがわかりません。日付式にしてからは進捗もスピードも一度に両方わかるようになりました。

この進捗表を牧師や係だけが見られるというのではなく、模造紙で大型チャートを作り、教会員のみなさんが見ることのできる場所に貼ってみてはどうでしょうか。教会員の方がこれを見ますと、申込者数、メールマン数、研究生名等と共に進捗も一目でわかります。研究生が礼拝出席すれば喜びも大きくなりますし、修了間近の人がいれば修了式を計画することもできます。研究生の名前をあげて祈ることもできます。いろいろ楽しみが増えます。ここで注意を一言。この大型チャートを研究生自身が見た場合、「あっ、これだけの人が研究しているのだな。自分も遅れないようにがんばろう」と、考える人もいますが、「ガツチリ管理されているのネ」と、考える人もいますので賢くなさってください。魂に対して配慮と関心を持つという点から考えますと、教会員はこのチャートをよく見た方がよいことは明らかです。

5. 絶対にあってはならないこと——紛失

いただいた研究生の答案用紙を紛失しますと教会の信用を失ってしまいかねませんので、紛失だけは絶対にないようにいたしましょう。

6. メールマン方式で始めたらメールマン方式で終わる

研究生の答案用紙を採点してもらうために教団のVOPバイブルスクールに送ってはいけません。メールマン方式はメールマンが届け、教会で採点する方法の伝道です。途中から通信講座に移行することは特別な場合を除いてできません。

7. 採点基準について

全く同じ所を間違った答案用紙がA教会では「優秀」になり、B教会では「優」であれば困りますので、もし「優秀」「優」のゴム印を使用する場合は次のように用いるようお願いいたします。

全問正解 もちろん「優秀」

1問間違い これは「優秀」



2 問間違い 「優」

3 問以上間違い 印はなし

採点は優秀と優だけにし、良とか可は使用しません。また、正解には 印をつけますが、不正解でも×印はつけず、赤ペンで正解を書き込みます。

8. トラクトの目的

最後に、トラクトについて考えてみましょう。トラクトの目的は何でしょうか。私はトラクトの目的は2つあると思います。

(1) 何かを知らせる

たとえばSDA教会という教会があること、聖書という救いの方法を示している本があること等を人々に知らせるのです。行事、イベント等を知らせることもあるでしょう。この場合、知ってもらえばそれで目的は達成したと考えるわけです。そのトラクトをみた人が教会に来なくても、手紙や電話が教会に来なくても、相手とコンタクトが取れなくても、存在を知ってもらえば、一応目的は果たしたと考えるわけです。この場合にはたくさんのトラクトを作り配布しなければなりません。かつて人口15万人の都市で働いていた時、3万枚配布すれば大人の4人に1人配布することになると考えました。東京で同じことは考えられません。しかし小都市では可能なのです。

札幌の愛隣チャペルでは毎週中高生が土曜日にトラクト配りを行っています。1994年には10万以上配り、1995年は15万枚が目標というのですから驚きです。私たちはいかがでしょうか。

(2) 相手とコンタクトが取れるようにする

相手がトラクトを読むだけでは何かを知ってもらっても、教会とのつながりはできません。そこで相手が何かの応答をするように導くわけです。たいていのトラクトには教会の住所や電話番号を入れるスペースがあり、そこにゴム印のスタンプを押して教会と連絡がとれるようになっています。しかし、ただそれだけでは相手が行動するかどうかはわからないので、行動に導くように申込書をつけたりします。今回、「10億枚の招待状」プロジェクトで配布するために用意されている招待状は、バイブルスクールの申込を獲得することを目的としています。

この招待状を住宅地、デパートやスーパーの近く、学校の門の近く等でたくさん配ってください。

クリスタル・チャーチでおなじみのアメリカのロバート・シューラーは教会の1年間の総収入の5パーセントは教会のPRに使うべきだと言っています。教会がどんなに成長していても5パーセントは使うべきだと言うのです。SDAであれば、什一をはじめ教団送金分もすべてを含めて年間収入の5パーセントなのです。1年間の献金が2000万円の教会であれば5パーセントは100万円になります。毎年100万円のPRを考えますと楽しみになりますね。どのようなことが考えられるでしょうか。

看板を数か所に立てる

バスや電車の車内放送をする

タウンページに広告を載せる

人通りの多い所に広告を出す

教会案内の印刷物を作る

ダイレクトメールを出す

新聞に広告を出す

新聞に折り込みをする

手作りトラクトをたくさん作る

その他

毎年毎年「今年はどうのようにして教会をPRしようか」と考えることは楽しいことではありませんか。しかし5パーセントへの挑戦には大きな勇気が必要ですね。社会においてあれだけ広告が出され「売ろう、売ろう」としているわけですから、教会も福音宣伝のためにもっともっとPRしなければなりませんね。ただ単にPRだけにとどまらず聖書を勉強する人が与えられる招待状をたくさんご利用ください。では次にトラクト、または招待状をどのように活用するかについて、具体的に考えてみましょう。

9. トラクトの活用法

(1) 人通りの多い所で通行人に渡す

10分間で100枚渡すことは難しくありません。1分間で10枚です。5分間で100枚できることもあります。かつて教団でペネトレーション・トラクトを作った時がありました。そのトラクトの最後のページに講座の申し込みハガキがついておりました。10分間で100枚配れるわけですから私は聖書研究や集会の行き帰りに街角に立って配りました。一度に200枚から300枚、時には500枚配りました。教会員に奨励するだけにならないように自分も先頭に立ってやってみました。どうでしょう。申し込みは何枚も来ました。当時1000枚配ると少なくとも1人の申し込みはありました。場所によっては500枚で1人でした。さて、あなたのところではいかがでしょうか。それがわかるまでやってみてはいかがでしょう。30分から50分位の時間をかけることによって申し込みが与えられることは素晴らしいことではありませんか。一度に1人の申し込みが与えられれば10回で10人の申し込みがあることとなります。1人で配るのではなく10人でやれば、さらに10倍の申し込みが得られることとなります。駅前で広告入りのティッシュやチラシを配っている人を見かけます。現代のように、これだけ効果を考える時代にティッシュやチラシを配っているのは、効果があるからなのです。私は配っている人がいたらそばによってダンボールの箱を見ることにしています。ほとんどは500個入りですね。それが2、3個あります。彼らは1度駅前に立つときに1000個から1500個配っているのです。物を売ったり、ローンを利用してもらったり、クラブに入会してもらうために。彼らは商売のためにやっているわけですが、私たちは人々の救いのためにやるわけです。もっともっと積極的にやるべきですね。1回に1000枚から1500枚配れば1教会で年間1万枚配ることは簡単にできます。人々の救いがかかっているのですから、もっともっと配りたいものです。

どうしても受け取ってすぐに道ばたに捨てる人もいますから、配布した後は必ず近くを回って捨てられたトラクト



を回収することを忘れないようにしましょう。

また、自治体によって、配布する場所や方法についての条約がないか、あらかじめ、確認しておくことも重要です。

(2) 地域を決め家庭訪問をして手渡す

教会名を言って「どうぞお読みください」と手渡せばよいのです。マンションの集合ポストに入れますと係に捨てられることがありますので、注意が必要です。

(3) いつも持って外出し手渡す

羽田空港で朝日新聞のカメラマンと知り合いました。とても楽しい時を持ち、着陸後、帯広空港から帯広駅前まで共に話し合いすばらしい時を持ち、とても勉強になりました。別れのときに「あっ、トラクトを持っていたらよかったのに」と思いました。持ち歩くことです。カバンやバッグの中にいつもトラクトを入れておきましょう。どこかのポケットをそのために聖別するといいいですね。チャンスはあります。いつも渡せるように準備をしておきましょう。

(4) 玄関、事務所、店等の目立つ所に置いておく

「ご自由にお取りください」と書いておけば興味を持った人は持っていきます。アメリカのチャタヌガ空港にはサインズが置いてありました。人目につけば、ほしい人には持っていくチャンスが与えられます。しかし置かなければ何も起こりません。

(5) 訪問者に手渡す

外にわざわざ配りに行けない人もあるでしょう。しかしそのような人でも人々に渡す気持ちがあればチャンスはあります。あなたのお宅を訪ねて来る人です。配達人、集金人、セールス、お見舞い、あいさつ、訪問等いろいろな理由で来る人に「チョットお読みください」と言って渡すだけでよいのです。そんなに難しいことではありません。

(6) 手紙やFAXで送る

この方法はトラクトが遠方にも行ける方法です。あなたに代わってトラクトが行くのです。それでもし人が救われることになればすばらしいではありませんか。やってみる価値はあります。

さて、このようにトラクト、招待状の配り方にもいろいろな方法があります。工夫してやってみましょう。何かをすれば何かが起こりますが、何もしなければもちろん何も起こりません。何かの結果が出ればそれを調査し、分析して改良、改善しましょう。

———おわりに

S D Aは人々を教会に導くため接点となる伝道の窓口には時間をかけています。しかし、つながりができた人を次の段階として定期的な聖書研究に導く段階が努力不足ですし、時間のかけかたも少ないのです。メールマン方式伝道はその聖書研究そのものです。これにもっともっと時間をかければ伝道の成果はかならず上がります。各教会に救霊目標数の10倍の研究生がいますと、救霊の向上は間違いな

しです。やり方によっては研究生の半分が決心に至るわけですから共にやってみようではありませんか。主の導きと祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。

※各教会に「メールマン方式伝道マニュアル・簡易版」と、「グループ研究マニュアル・簡易版」をお送りしております。必要な部数をコピーしてご利用ください。

